

ごみ処理の状況調査結果

10 月末までに、以下の業種の事業所に対して、現状及び課題、具体的な取り組みについてヒアリング調査を実施した。結果概要を以下に示す。

【廃ペットボトルのリサイクル事業】

①回収状況・再利用製品化について

- ・5,600～6,000t/年(グループ会社工場含む)を自治体から収集している。
- ・産業廃棄物としてペットボトルを事業者から収集することはごくわずか。飲料メーカーに対して2～3 ヶ月に1回、パッカー車1 トン分くらいの頻度と量の収集をする程度。
- ・ペットボトル引取量に対して、落札する自治体により変動はあるが約97%は再利用。
 - 再利用品：フレーク(A 級品)：約80%～85%
 - 再利用品：フレーク(B 級品)・パウダー・キャップ粉碎品・ラベル：約12～17%
(フレーク B 級品・パウダー・キャップ粉碎品は再商品化され、ラベルは助燃剤としてリサイクルされる)
 - 廃棄処理(汚れたパウダー・異種ボトル・著しく汚れた PET・汚泥)：約3%
(パウダーはセメント会社にてセメントの原燃料としてリサイクルされる。)
- ・フレークなどの出荷先は県外のメーカー(九州・関西・関東)で、用途は長繊維・短繊維(衣類の原料)、シート(食品用トレイや卵パック、クリアファイルなどの原料)。

②問題点・課題

- ・事業立ち上げ当時は、卵パックの生産まではしたいと思っていたところ、県内で消費される1年間の卵パックの量は、1 ヶ月工場を操業すると賸えてしまうことが計算でわかり、事業としては厳しいと判断し、フレークまでの加工に留めている。
- ・県内離島では、運搬効率の観点からペットボトルがある程度溜まってから搬出するが、保管場所が海岸に近い箇所では、保管中に海水や砂で汚れてしまいリサイクルに不適合なものになる場合がある。

③課題解決に必要なだと考えること

- ・デポジット制度の導入など、価値創出につながる仕組みがあると、ペットボトルが捨てられることなく、より正しく分別され収集されると思う。
- ・適正な保管場所の確保(整備)が必要である。保管場所の確保により、焼却処分がないようにお願いしたい。
- ・プラごみ問題でプラスチックを自治体にて回収する方向へと動き出すと思うが、新しい仕組みを作る場合、ペットボトル以外のプラスチックごみと一緒に収集するのではなく、今ある仕組みを活かす方向で進めてほしい。

④その他

- ・コロナ禍以前は、高校生のインターンシップを1年度あたり5校ほど受け入れていた。また、小中高を対象とする出前授業は1年度あたり2～3校実施していた。その他、学校の社会科見学や、理科教員の研修としても工場見学を実施したことがある。

【自動車リサイクル事業・家電リサイクル事業・産業廃棄物リサイクル事業】

①回収状況・再利用製品化について

大分類	小分類	受入実績(2020年度) 重量(全体に占める割合)
金属スクラップ類		89,869 t (63.9%)
自動車リサイクル	廃車(30,727台)	44,199 t (31.4%)
	Aプレス(32,511台)	
家電リサイクル		3,895 t (2.8%)
産業廃棄物		2,748 t (2.0%)
合計		140,711 t

- ・一般市民からの自動車の持ち込みは全体の約2.5%、月に約128台程度。

(※2020年度実績 : 1,530台)

- ・2020年度のプラスチック出荷量(マテリアルリサイクル)は自動車リサイクルで144,079kg、家電リサイクルで601,444kgの合計745,523kg。
- ・県外樹脂マテリアルリサイクル事業者のほか、県内の樹脂マテリアルリサイクル事業者にも出荷している。
- ・マテリアルリサイクル以外では、サーマル等として自社工場で破碎、固形化して代替加炭材や助燃材として活用している。
- ・離島域における自動車リサイクルは、リサイクル料金により処理費用は一律となっている。法により離島補助はあり、出荷運賃の一部は排出側が負担している。
- ・離島域における家電リサイクルもリサイクル料金は一律だが、本島までの輸送費は市町村あるいは個人で負担している可能性がある。こちらも離島補助はあり、出荷運賃の一部は排出側が負担している。

②問題点・課題

- ・回収量と使用量にギャップがある。

③課題解決に必要なだと考えること

- ・安定したリサイクルを実現するためには、ユーザー側(樹脂製品メーカー等)への再生樹脂を安定して使用・活用する必要があると理解してもらうことが重要だと考える。
→バージン(リサイクルではない樹脂原料)は、石油価格により変動するため、石油価格が下落中は安価で仕入れが可能である一方、リサイクル樹脂は製造するため(リサイクルするため)に石油価格に左右されない一定のコストがかかる中、需要の安定化が必要である。